

2019 年

2019年に入り、世界の主要国・地域の経済が減速。厳しい対外環境を受け、わが国経済は外需に弱みを見せた。その一方、内需がリードし、消費に加え設備投資や公共投資なども堅調に推移。雇用・所得環境の改善などもあり、緩やかな景気回復傾向の様相を呈した。

大塚商会は引き続きお客様との関係強化を図ると共に、「オフィスまるごと」の方針の下、提供する商材やサービスを組み合わせた提案に努めた。またイベントやセミナーではオフィスの2020年問題を提起し、IT需要喚起に努めるなど、好調を持続しながら本年に臨んだ。

Topic

1

AIビジネスの推進

大戦略プロジェクトの下、大塚商会は営業活動にAIを組み込み、さらなる生産性向上に努めている。ここでは大塚商会の幅広いAI活用について紹介したい。

世の中では第3次AIブームと呼ばれているように、我々の生活における多くのシーンでAI技術が使われだして、大塚商会においてもそれは同様である。例えば本社ビルでは昼食時に社員食堂の混雑状況をデジタルサイネージで案内しており、そこでは画像解析技術が使用されている。また、たよれーるコンタクトセンターで利用されている音声自動テキスト化や、オペレーター回答支援システムもAI技術の恩恵によるものである。

このようにAIはすでに我々の身近に存在し、今後もその活用シーンは増えていくことは確かであった。大塚商会でもこの波を捉え、AIビジネスをさらに推進すべく、2019年に各部およびグループ会社からAIキーマンを選出した「AIビジネス推進会議」を立ち上げている。関係者が情報を共有しながらAIの自社利用範囲拡大を検討し、社内利用による製品評価を行なった上でサービスメニューを整備し、お客様への提供につなげようとする戦略である。

すでに現時点でも顔認証、文字認識、音声解析、遠隔支援、IoTや関連するPoCサービスなど多くのソリューションメニューが整い始めており、今後が大いに期待される。

2019年にはマーケティング本部内にAI・IoTを専門とするプロモーション課を新設し、AIビジネスについて訴求できる体制を整えている。

Topic

2

連結売上8千億円台に突入

2019年の第2四半期決算で大塚商会は2014年のWindows XP特需以来、5年ぶりに公表予算を上方修正した。2019年の通期の連結売上高は前年より1,266億円増加し8,865億円。単体売上高は前年の6,849億円から7千億円台を飛び越え、1年で8千億円に達した。売上高、各利益で過去最高を更新し、10期連続での増収・増益・増配を達成した。

2019年はWindows 10へのリプレースなど「PC特需の年」と言われたが、決してパソコンのみが業績伸長の要因ということではなく、他商材も広範にわたり売上上昇に寄与したことが強く印象に残る1年だった。

お客様に喜んでいただき、業績を伸ばし、お取引先様にも株主様にも還元し、社員にも報いていく——これこそ、上場企業としての大きな役割であり、また存在意義であることに他ならない。

創業者・大塚実の逝去



2019年9月7日、創業者であり相談役名誉会長の大塚実が逝去した。享年96であった。
大塚実氏は2004年に相談役名誉会長に就任後、故郷への恩返しと美しい日本の自然を後世に残したいとの思いを抱き、自然環境の保護や再生に取り組んだ。

故郷である栃木県益子町の自然環境保全のほか、静岡県熱海市の熱海梅園の再生や、糸川沿いあたま桜並木の整備、海岸通りジャカラング遊歩道の設置に尽力。また千葉県鴨川市大山千枚田の棚田保全にも傾注した。

大塚商会は10月29日に築地本願寺において社葬を執り行ない、12月2日には帝国ホテル東京本館2階「孔雀の間」にて「大塚実を偲ぶ会」を開催した。社葬には615人、偲ぶ会には1,140人が参集した。どちらも冷たい雨が降りしきる天候であったが、偲ぶ会には業界関係者やOBをはじめ、故人と親交のあった多くの方々に来場いただいた。

献花会場では弦楽奏者による生演奏が行なわれ、午前11時10分より偲ぶ会委員長である大塚裕司の献花により開始。幹部に続き、来場者による献花が行なわれた。

その後、来場者一人ひとりを大塚裕司ほか幹部役員がお迎えし、答礼。次の会場へと案内した。
展示・会食会場には大塚実の略歴と併せ、幼少時からの数々の写真パネルに加え、大塚商会創業時、1960年頃の秋葉原の風景や、栃木県益子町から見た雨巻山などの写真パネルも展示された。

さらに大塚実が生前、愛用していたネクタイ、直筆の社訓、大塚実の自分史である『風雪を越えて』（2004年4月21日発行）などの主な出版物、2000年代の会長室の再現セット、そして社長職を退いて会長に就任してから尽力してきた環境保護・社会貢献活動の一部である糸川遊歩道のあたま桜や熱海梅園の紅葉などのパネルを展示。そして会場内の大画面モニターには、生前の大塚実の談話など、メモリアル映像が映し出された。

1922年	■	10月9日、栃木県益子に生まれる
1947年	■	理研光学工業株式会社（現 株式会社リコー）入社
1951年	■	株式会社理研紙工業設立入社
1953年	■	株式会社ルミナ閃光電球入社
1954年	■	株式会社山本商会入社
1961年	■	株式会社大塚商会設立、代表取締役社長就任
2001年	■	株式会社大塚商会代表取締役会長就任
2004年	■	株式会社大塚商会相談役名誉会長就任
2019年	■	9月7日、逝去